

nouvelle Fontaine

vol. 30

発行日 2011年1月15日
発行/岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

卯年を迎えるに あたって



岸和田文化事業協会 会長 松本 則子

50年も前のことですが、街頭占いの人が道端で十二支の絵図を広げ、細い竹の棒でその絵をコツコツ叩きながら、「子年生まれの方、この方は、コツコツこまめに働いて、小金残して出世する」と節をつけて説明していました。卯年生まれの方はなんと歌われていたのだらうと思いだそうとするのですが、どうしても出てきません。

人形劇を創るために世界の昔話を探していると、中南米ではうさぎは知恵が働けけれど、どこかこすっからい動物として扱われています。

日本人はうさぎをどう思っているのでしょうか。「うーさぎうさぎ、なに見てはねる」と童謡ではかわいい小動物ですね。「待ちぼうけ」ではうっかり木の根っこに引っかかっています。カチカチ山のうさぎは正義感でたぬきと張り合っていますね。

動物というのは遺伝と本能で行動して、その行動をどう思うのかは国民性や民族性で異なるようです。

動物の行動は遺伝と本能しかないけれど、人はこの上に経験と模倣があり、それを言語で伝えて、集団の思想、感情、行動が生ま

れ、集団の一員として仲間から学習し習得する、それが文化だと日本語大辞典の文化の説明です。だからうさぎの見方も国と民族によって変わるのでね。

この文化の定義、なんか現代社会に対する皮肉みたいですね。言語で伝えるのは下手、集団になるのも苦手、仲間から学ぼうとしていないなあ、今の日本人達は。

しかし、岸和田文化事業協会はこの風潮に負けないで豊かな文化を作ろうとしています。突然何をと言われそうですが、昨年、自泉会館の指定管理者としての書面及びプレゼンテーション審査があり、指定されるについて、向こう5年間の方針を提出しなければなりませんでした。

文化を通して学ぶことや伝え合うこと、自分を表現することなどを精一杯考えて提出し、岸和田文化事業協会は、今年4月から5年間、自泉会館の指定管理者に再度指定されました。

みんなで文化を楽しんで、うさぎのようにピョンピョンする心でいられる良い年にしましょう。

岸和田には多くのすばらしい先人たちがおられます。いろいろな分野で活躍された岸和田ゆかりの著名な方々をご紹介します。

「喜劇」生みの親

日本の喜劇王 「曾我廼家五郎」

「喜劇」の誕生は大阪。この新しい演劇を興した曾我廼家五郎は、本名「和田久一」。父は、岸和田市稲葉町出身。母は、堺市錦之町にある浄因寺住職の長女。堺県生まれと紹介されることも多いが、五郎の生まれた明治10年には岸和田も堺県に属していた。父の死後母方の浄因寺に身を寄せ小坊主として少年時代を過ごす。役者となった五郎は、中村珊瑚郎の弟子となり、中村珊之助の芸名で舞台に立っていた。やがて旅回りの一座で知り合った中村時代を誘い、俄からヒントを得た笑う芝居の準備を始め、一座を結成したが旗揚げ興行に失敗。各地を転々とするが、機会を得て明治37年2月、曾我廼家五郎・十郎と改名して道頓堀の浪花座で公演することとなった。たまたま日露戦争の開戦にあたり、その戦争に当て込んだ芝居「無筆の号外」が大当たりとなり、曾我兄弟にあやかり名付けた曾我廼家兄弟劇は一躍脚光をあびた。

大正3年、五郎の洋行を機に、曾我廼家兄弟劇は分裂。翌年の帰国後、五郎は「平民劇団」（のち「五郎劇」と改称）、十郎は「十郎劇」を結成した。

十郎が大正14年に没すると、五郎は残された役者も一座に吸収し、曾我廼家五郎劇は、東京を始め全国各地の一流劇場を常打ちにするなど、大人気劇団となった。

五郎は、みずから脚本を書き、演出、主演を

する喜劇団の座頭のスタイルを確立し、「日本の喜劇王」の名をほしいままにした。^{いつかいぎよじん}一堺漁人というペンネームで生涯一千本以上の脚本を書いたと言われているが、その代表作として36年の間一年一作の傑作を選んで、三十六歌仙をもじって「三十六快笑」を作った。

五郎は、やがて喉頭癌のため無声の俳優となっても舞台に立ち続けたほどの役者魂を持つ人であった。昭和23年11月、五郎が没すると、残された面々は、12月に松竹家庭劇と合流し二代目渋谷天外、曾我廼家十吾、藤山寛美等で松竹新喜劇を結成。

新喜劇は大人気を博し、昭和41年から昭和62年まで空前絶後の松竹新喜劇無休連続公演244ヶ月が続けられた。平成2年5月に藤山寛美が60歳という若さでこの世を去り、また一つの時代が終わりを告げた。

平成13年には、曾我廼家喜劇を上演する「山椒の会」が発足。平成18年3月には浪切ホールにおいて曾我廼家喜劇「幸助餅」が上演された。公演に先立ち曾我廼家八十吉さんや特別出演の西川峰子さんらが稲葉町を訪れ、五郎が帰郷公演を行ったという菅原神社や五郎の父の墓に参り、里帰り公演の報告を行った。同年8月にも浪切ホールにて、第四回山椒の会、演目は一堺漁人作「恋を忘れた女」、「雪の夜の街」が上演され、多くの岸和田市民が五郎の世界を堪能した。



昭和7年に喜劇王「チャップリン」が来日。五郎の楽屋を訪問。



五郎劇の手書きの台本
脚色の和田秀子は五郎夫人で五郎の最期を看取った。

歴史再発見 ご存知ですか

vol.3

副会長 行 龍男

人の生活に必要なものとして「衣食住」と云いますが、その中でも、「食」が一番根源的なものです。

日本人にとって食とはやはり「米」、米と言えば、その育成に必要なのは「水」です。

では、その水を、古来から人々はどのようにして確保してきたのでしょうか。

1】岸和田池と岸和田庄

岸和田市南上町



写真1 諸井堰

岸和田の川は、深い谷を作り、川の水の利用を困難にしています。

そのため、上流に井堰を作り、溝を作って

下流に水を導きます。津田川では、河合町にある諸井堰(写真1)から溝を掘り、右岸は土生町へ、左岸は阿間河滝町へ水を流しています。岸和田庄の人たちは古来より水



写真2 岸和田池

不足に苦しみ、独自の水瓶を確保するのが長年の夢でした。天正3年(1575)松浦肥前守が岸和田庄の池として

作らせたのが岸和田池です。(写真2)

池の水は諸井堰から阿間河滝町を経て岸和田池に入り、必要なときは再び池の水を津田川に落とし、下流の畑町にある岸和田井堰で上げました。(写真3)

毎年田植え前に上町等の農家の方々が井堰(俗称風船)を作り上町等に配水されます。



写真3 岸和田井堰

昭和6年刊行の相沢正彦氏の「岸和田志」によると、寛永17年(1640)岡部氏が岸和田に入城するや用水溜池を全部御用として藩が回収しました。特に岸和田池は、城の外堀の水源地として指定されました。緊急時以外は、農業用に使用してもよいと許可されました。江戸時代を通じて、緊急時は一度もなかったようです。

外堀は空堀で、その痕跡は岸城幼稚園の南西方向に見受けられます。

2】久米田池と池郷12ヶ村

八木・春木郷

久米田池は奈良時代(738年)に行基によって開削されたという伝承を持ち、中世末期以降は久米田池の水利権を持つ村々が池郷を形成し、池の維持管理を行ってきました。

しかし、江戸時代を通じて幾度となく村々の間で衝突がありました。その都度話し合いがもたれ、池郷内の公平性が保たれるよう知恵を出し合い取り決めがなされました。その一つに久米田池には、三つの樋があり、

一番樋：池尻・大町・箕土路・下池田・小松里

・荒木・加守村。

二番樋：西大路・中井・吉井・春木村。

三番樋：田治米村 が取水していました。

池に近い村が取水に有利に働くので、樋の抜き指しの権利は、一番樋は、加守村。二番樋は、春木村に支配権がありました。



ため池百選 選定 久米田池

Cultural Hot Spot In Kishiwada

無病息災を願って
新年にお茶が楽しめる
西念陶器研究所「大福茶会」



西念陶器研究所 西念秋夫 所長

岸和田市三田町にある西念陶器研究所（轟窯）。そこに建つ、一軒の鄙びた田舎家では毎年正月3日に「大福茶会」が行われている。その詳しい内容や開催に至るまでのいきさつを、同研究所の所長で陶芸家の西念秋夫さんに聞いてきた。

気楽に楽しめるお茶会

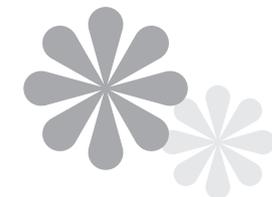
中学校のころから焼き物に興味を持ち始めた西念さんは、「焼き物をするのならデッサンと茶が必要」という話を聞き、高校を卒業して本格的に焼き物の世界に足を踏み入れたのと同時に、独学で茶についても勉強を始めた。その後、牛滝山の大威徳寺や市民会館で茶会を開き、有志の集まりである「いづみ茶道会」にも参加。我流に加え一般的な茶の作法も習得することになる。

「そこで知り合った焼き物の仲間の西野さんと、一般の人に向けて茶を出そうと。けど、自分達は茶の先生ではない。先生ではないけれど、自分達でできることから始めようということになったんです」と西念さんは「大福茶会」を始めるようになったきっかけを話す。

そのころ、五風荘の一画が裁判所（現在は移転）の駐車場として利用されることとなり、その区域に建てられていた田舎家は解体が決まった。田舎家を「窯の焚き付けにでも」と譲り受けることになった西念さんだが、「壊すのはもったいない」と移築を考え、1985年に現在の場所へ。そのときに念願だった茶会を開くことになったが、茶道の免状も持た



約250年前の姿を残す田舎家



ない西念さんたちは、千家流などとは違う茶会を画策。そこで目をつけたのが奈良西大寺で4月に行われる「大茶盛」だ。

「これなら千家流以前のお茶会ですから、作法や形式も気楽だと思って取り入れました」。

200人以上の来客

大茶盛は平安後期に始まったとされる京都の行事、「大福茶」が源流といわれ、疫病退散を願い、空也上人が当時は薬として用いられていた茶と滋養をつけるための昆布、梅干、おかゆを病人に与えたのが始まりとされる。

「それを正月に行うことで、1年間の無病息災を祈願することができる。おかげさまで今は、220人から230人のお客さんが来てくれます」と西念さん。

参加方法は1月3日の8時半から15時半の間に田舎家を訪れるだけ。予約の必要はないが、お茶とお菓子、おかゆ、記念品費込みで1千円が必要。約250年前に建てられたという古民家の中で、正月から気軽にお茶を楽しめる「大福茶会」。今年はすでに終了しているが、興味をもたれた方は、来年には是非、訪ねてみることをおすすめする。



1月3日の茶室の様子

岸和田文化事業協会

理事さん

りりーエッセイ

文化施策における 「西の岸和田」と 指定管理者制度



専務理事

真下 豊光

今から約20年前、平成3年に徳島市で「第1回全国文化の見えるまちづくり政策研究フォーラム」が開かれ、岸和田市の文化施策及び文化団体が、日本各地から注目を集めたことがありました。「東の水戸・西の岸和田」という言葉で新聞にも紹介され、各地の自治体職員や議員が視察にも来られました。

岸和田市では、以前から文化施設の運営、市民文化振興のための施策や制度化等「行政への市民参加」を積極的に推進していましたが、更に一歩進めて、逆に市民全体の文化活動に行政が参加する「市民活動への行政参加」という施策を考えました。この施策を実現するために、行政の働きかけにより設立されたのが当協会の前身である「岸和田市市民文化事業協会」でした。公立の文化施設の管理運営やイベントの企画運営を、市民らが作るアマチュアの事業団体に任せる内容です。これらの文化施策が全国的に注目されました。

しかし、平成12年の小泉内閣が打ち出した「規制緩和」により、「指定管理者制度」が全国の公立文化施設等に広がり、本市においても平成18年度から複数の施設で取り入れられています。この制度の導入により、20年前に考えられていた本市の文化施策は方向転換されたと考えられます。

文化というものは、年月を積み重ねて作られるものであり、時間のかかるものです。5年ごとに運営主体が変わる危険性のある指定管理者制度は、文化施設には馴染まないと関係者の間では言われています。

こういった状況の中、平成23年度からの自泉会館の指定管理者に「岸和田文化事業協会」は引き続き指定されました。全国から注目を浴び、先輩諸兄が築いてこられた市民主体の文化活動を、今後も継続発展していきたいと考えています。

広報部会員は部会長を含め総勢5人、私が属しているのに僭越ですが、多才なメンバーで構成されています。各人各様の5人が寄ると、かの昔詠まれた歌『・・・欠けたることのなし・・・』の満月のようなチームになります。

「ぬーべるふおんてーぬ」編集の基本は、「岸和田の文化にこだわる」こと、それを外さないように掲載内容を企画しなければなりません。編集会議ではメンバーが持っている情報や知識を出し合い、意見交換しているうちに内容が決まっていきます。この会議は、私にとっては「へー！」「ホー！」の感嘆詞続きで、たまたま面白くて、「素晴らしい岸和田」を発見できるゴールデンタイムになってきました。知らなかったことを知るたびに、「岸和田って素晴らしい」と感動しています。

編集会議で内容を決めると、その分野の造詣者に原稿を依頼したり広報部会員が取材したりして、原稿や写真を集め、紙面づくりを行います。そして何度かの校正を経て、印刷へと進みます。毎回、完成品を見るまでミスはないかとドキドキですが、おかげさまで今までのところ「いいものが出来たね」と自画自賛できました。皆さんから良い原稿を寄せていただけるからこそと、感謝しています。

これからも「ぬーべるふおんてーぬ」を読まれる方々が、岸和田の人・歴史・暮らし・建造物などを再発見し、『岸和田って素晴らしい』と感じていただける紙面でありたいと願っています。理事の皆さまが、次回は、広報部会にどうぞ！

「岸和田って素晴らしい」を 発見できる広報部会

理事

紙野 陽子



文化事業協会事業「音楽世界旅」モンゴル編展示室にて(左側本人)

歩いて岸和田のよさを知る

岸和田慢歩

第1回

城見橋から浄光寺まで

理事 藤田保平・齒黒猛夫

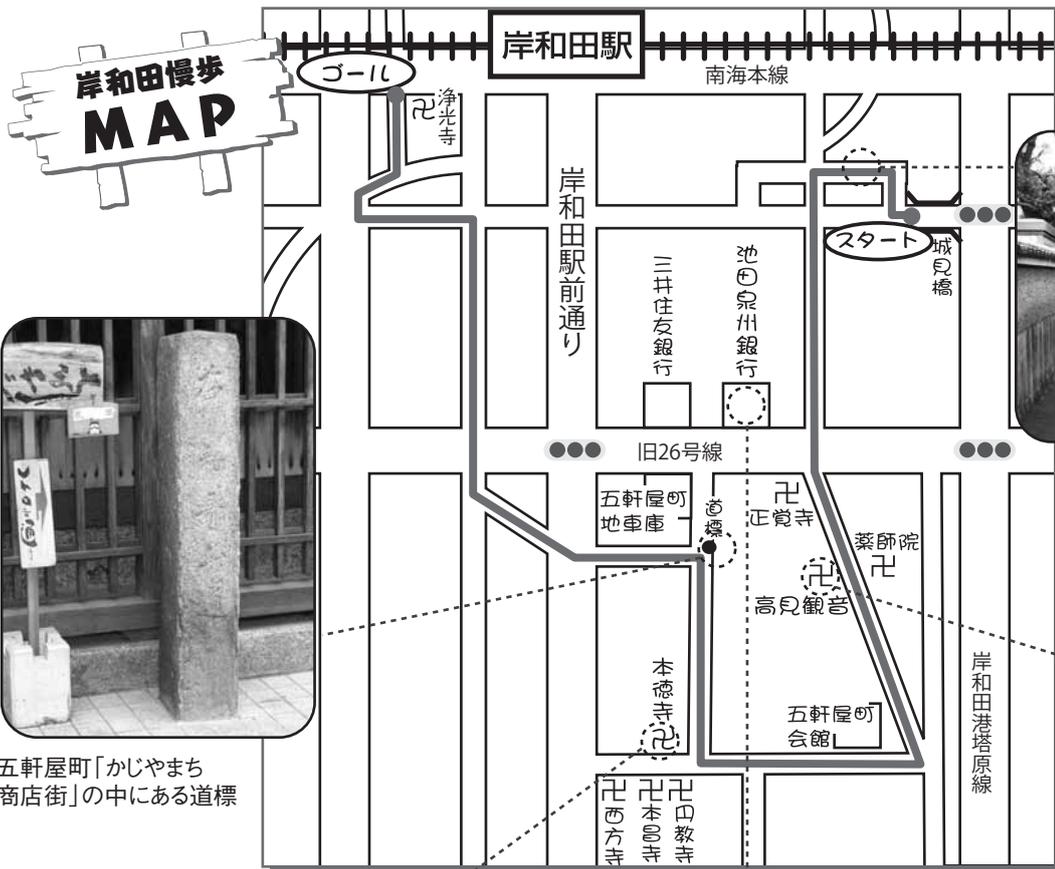
「牛滝街道（久米田道）」の起点は岸和田城下だという説があり、現在のかじやまち商店街を歩いて岸和田天神宮（沼の天神）にいたり、そこから牛滝山へ伸びていたともいわれています。今回は古の佇まいを残す町並みから近代建築を眺め、牛滝街道を少しだけ辿るコースをご紹介します。

スタート地点は城見橋。すぐに右へ折れると旧家が並ぶ情緒ある街並みが続きます。そのまま直進し、右に生花店のある角を左折。真っ直ぐ進み旧国道26号線に面して右側に建つのが「池田泉州銀行」。銀行前の横断歩道を渡って左に進み、正覚寺の角を右に曲がると「高見の観音さん」で有名な観蔵院があり、節分の日に豆まきと甘茶の振る舞いが行われ、多くの人出で賑わいます。

賑わいます。

坂を下って五軒屋町会館の角を右に曲がり、かじやまち商店街に入って真っ直ぐ進むと寺町へ。右手側にある本徳寺には明智光秀の肖像画が保存され、一説によると寺の建立者が光秀の子ともいわれています。

商店街に戻って直進し、大きな旧家の前には古びた道標。左に曲がって商店街を抜けて直進。突き当たりを右に曲がって再び旧26号線を渡ると寿栄広商店街に到着し、左に曲がって道なりに進み、広い道を渡らずに右折。すぐの角を右に曲がって左に折れ、路地の中を進むと浄光寺に到着。これが、いわゆる牛滝街道の岸和田市街地コースで、古い町並みや近代建築、いわれのあるお寺などを眺めて散策することができます。



五軒屋町「かじやまち商店街」の中にある道標



宮本町内の屋敷街



岸和田城の鬼門守護のために建立されたとされる観蔵院（通称・高見観音）。



寺町にある本徳寺。明智光秀唯一といわれる肖像画が保存されている。



合併するまでは泉州銀行本店だった建物。昭和34年に名建築家の村野藤吾が手がけた。

Event Report

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

アンケートからの抜粋

会員対象事業

「竹の根を使って印判を刻る」

平成22年10月20日(水)に、自泉会館展示室を使い、実施しました。

藤田保平先生が講師をされ、32人の参加者がオリジナルの印判作りにチャレンジしました。



チャレンジする参加者

〈皆さんの声〉

- 自分の名前の字のてん書体を知り、たった一つの自分の印ができ、記念になりました。
- 暗かったので、作業がしにくかった。
- 細かい作業は疲れますが、出来あがったので良かったです。

会員対象事業

「2011年の干支うさぎの置物を作りました」

平成22年12月1日(水)に、自泉会館展示室を使い、小木曾由季先生に講師をお願いし実施しました。当日は8名の参加がありました。



参加者の完成品

〈皆さんの声〉

- 今まで、コンサートが多かったので、こういう手作りの企画はうれしいです。
- 久しぶりに針を持って、楽しかったです。
- 他では高額な講習が、会員になったことでこれだけ安く講習してもらえるのはうれしいです。

音楽世界旅 VOL.3 イラン編

平成22年11月6日(土)にレクチャー・コンサート“ペルシャの幻想 トンバク・サントウール・セタールの競演”を実施し、63名の入場者がありました。



解説をされる西岡先生と演奏者

〈皆さんの声〉

- ピアノの原型のようなサントウールや珍しい奏法や楽器に出会い、楽しいひとときでした。あと2回も楽しみます。
- 近い場所で、遠い国の音楽に触れることができ、とても良かったです。
- 西岡先生の解説が毎回分かり易いです。唯コンサートを聴くより、一層おくが深いです。
- 初めての楽器とその音色、特にサントウールとトンバクに心が癒されました。

第22回「フレッシュコンサート」

～秋に思いをはせて～

平成22年10月30日(土)に音楽を学びプロフェッショナルとして歩み始めた新人による演奏会を、自泉会館ホールで実施し、108名の入場者がありました。



出演された皆さん

〈皆さんの声〉

- 客席がうるさかった。喋りを止めさせるよう司会がピシッと注意して欲しい。
- 広いホールも良いけど、近い距離で聞けるコンサートで良かったです。
- 演奏内容はよくわかりませんが、一生懸命さはよく伝わりました。若い方に機会を与えるのは良いことだと思います。

岸和田文化事業協会の事業 Information

音楽世界旅 VOL.4 アルゼンチン編

レクチャー・コンサート
アルゼンチン・タンゴの華
 バンドネオンの真髄を聴く

日時:平成23年1月29日(土)午後2時開演
 会場:岸和田市立自泉会館ホール
 出演者:タンゴアンサンブル「アストロリコ」
 入場料:一般前売 2,500円
 会員前売 2,000円(当日各300円増)

企画:大阪音楽大学音楽博物館

アルゼンチンを感じるコーナー

日時:平成23年1月29日(土)~30日(日)
 午前10時~午後5時
 会場:岸和田市立自泉会館展示室
 入場料:無 料

音楽世界旅 VOL.5 インドネシア編

レクチャー・コンサート
インドネシア・ガムランの音世界

日時:平成23年3月12日(土)午後3時開演
 会場:岸和田市立自泉会館ホール
 入場料:一般前売 2,500円
 会員前売 2,000円(当日各300円増)

企画:大阪音楽大学音楽博物館

第4回 フレッシュプレミアムコンサート ~未来へここから~

日時:平成23年3月19日(土)午後5時開演
 会場:岸和田市立マドカホール
 出演者:平成22年度自泉フレッシュコンサート
 出演者の中から推薦された者。
 入場料:前売 1,000円
 (当日各200円増)

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで

TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

文化情報

第25回 隗 展

日時:平成23年1月29日(土)~2月2日(水)
 午前10時~午後5時
 会場:マドカホール展示場 入場料:無料
 主催・問合:岸和田美術の会 TEL072-445-1070

第6回 バレエセッション イン 浪切

日時:平成23年2月11日(祝)午後1時開演
 会場:浪切ホール大ホール
 入場料:無料
 主催・問合:バレエセッション イン 浪切 実行委員会
 平瀬バレエアートスタジオ TEL072-432-7527

平成23年度(平成23年4月~平成24年3月)

会員募集

「岸和田文化事業協会」は、文化・芸術の発展をめざして活動する市民文化団体です。鑑賞や参加だけでなく、創造、発表、企画、情報発信、提言など自らのネットワークを活用して「地域の文化環境」づくりに貢献することを目的としています。文化・芸術を愛し、会の趣旨に賛同される方はどなたでも入会できます。岸和田市在住以外の方も歓迎いたします。

年会費(入会費不要)

個人会員(1口)	2,000円	団体会員(1口)	5,000円
家族会員(1口)	1,000円	法人会員(1口)	10,000円
(個人会員の同居家族)		特別会員(1口)	50,000円

入会方法

協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。
 郵便振込の場合は
 口座番号 00970-9-28145
 加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで。
 TEL/FAX 072-437-3801
 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

Fontaine vol.30

発行:岸和田文化事業協会
 発行日:2011年1月15日

◆事務局
 〒596-0073
 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
 TEL/FAX 072-437-3801
 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 和田正則・紙野陽子・歯黒猛夫
 藤田保平・本郷元子

編集後記...

広報部の一員として「ふおんてーぬ」の編集に携わり、2年が経とうとしています。今年の総会で任期も終わるので、一応は今号と次号でお役目終了と言うこととなります。この2年間、さまざまな人と出会い、また同じ広報部の方々からご教示も賜り、貴重な体験を得ることができました。この場を借りて御礼申し上げます。また、理事を退いたとしても、何らかの形で「ふおんてーぬ」の制作にはかかわりたい。そんな勝手なことも考えています。とはいえ、まだ任期は残っています。残り少ない期間ではありますが、できる限りの努力を尽くしたい所存です。

末筆となりましたが、本年もよろしく願い申し上げますとともに、読者各位のご多幸をお祈り申し上げます。(歯黒)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/> 岸和田文化事業協会 検索